

自律的活動を意識した生活科授業の展開

指導主事 本山 浩文

研究協力校 山鹿市立山鹿小学校 1 年部

公開授業者 教諭 山本 直子 (1 年 1 組)

検証授業者 教諭 谷川 優子 (1 年 2 組)

検証協力者 講師 中原 和代 (1 年 3 組)

教諭 八浪 秀美 (1 年 4 組)

1 研究の視点

資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書 1 (平成 27 年 3 月) で、未来を創る力 (実践力) の構成要素である自律的活動は、「実践的な課題の発見・解決」と示されている。また、未来を創る力 (実践力) を、これからの社会づくりの理念である「自立・協働・創造」を実現するための力とも述べ、表 1 のように整理されている。

(表 1)

	自律的活動	関係形成	持続可能な社会づくり
能力	自己理解・自己調整 キャリアデザイン 意思決定 (選択)	共感 コミュニケーション チームワーク・合意形成	社会・文化理解 環境意識 創造
価値	自律・責任 レジリエンス	思いやり・配慮 寛容	正義・公正・平和 尊重 (命・自然・文化)

同様に、教育課程企画特別部会の論点整理 (平成 27 年 8 月) では、「育成すべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、…よりよい社会を構築できる力の育成等を図っていくことが求められる。」と示されている。

一方、生活科の目標を端的に述べると、「具体的な体験や活動を通して、自立への基礎を養う」である。そして、学習指導要領解説では、自立について次の 3 点が示されている。①学習活動を自ら進んで行うことができ、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できるという学習上の自立 ②生活上必要な習慣や技能を身に付けて、自らより良い生活を作り出していくことができるという生活上の自立 ③自分の良さや可能性に気づき、自分自身の在り方に夢や希望を持ち、前向きに生活していくことができるという精神的な自立である。

以上のことから、本研究では、「自立・協働・創造」へつながる生活科での究極の目標である「自立への基礎」を養うために、探究的な学習過程の中で、課題の自律的な発見・解決を進めることで、未来を創る力 (実践力) である「自律的活動」を育成することをねらいこのテーマを設定することにした。

(1) 視点 1 について

- ① 子どもの問いからスタートする探究的学習過程
探究的学習過程で指導計画を作成し、単元全体の問いとそれに連動した毎時間の問いを工夫する。
- ② 相手意識・目的意識を明確にした言語活動
単元を通した相手意識・目的意識がはっきりするような課題を提示し、授業の中でも常にゴールを意識した言語活動を行う。
- ③ 子どもが「驚き発見等」を伴う教材提示の工夫
導入に、子どもたちの興味を引くようにアンケートや幼少期の軌下、ミッション表の活用等を工夫し、意欲を引き出し、問いが生まれやすくする。

(2) 視点 2 について

- ① 伝え合いと振り返りの位置付け (毎時間)
考えを明確に持たせ、伝え合いと振り返りを毎時間位置付けて、気づきを促し、他者との協働でより高められるようにする。
- ② 自分自身への気づきが生まれる振り返りの工夫
精神的な自立へつながるよう、振り返りの視点を「前と比べて」「友達と話して」「これから」と設定し、毎時間最後に位置付ける。
- ③ 子どもの思考が見えるような学習シートの工夫
子どもの思考の流れを意識し、シートに書く視点を絞り、具体的に表現させるシートを作成する。

(3) 視点 3 について

- ① 教師の言葉かけの工夫
子どもの気づきを高める共感的な言葉かけや意味付け、価値付けにつながる言葉かけを工夫する。
- ② 思考を深めるための工夫
子どもたちの思考を深めるために、ペア活動の視点の提示とデモンストレーションを位置付ける。
- ③ 思考の可視化につながる ICT の活用
教師が教材提示や前時を振り返る場面、子どもが自分の発表を行う場面等で ICT を活用し、一人一人の気づきを高め、共有できるようにする。

2 研究の実際

検証1 小学校第1学年 内容(2)
単元名 「かぞくにこにこ大きくせん」

(1) 本単元の授業設計

① 単元の目標

家庭生活を支える家族について関心を持ち、調べたり尋ねたりする活動を通して、自分のできることにについて考え、家族へ感謝の気持ちを持つとともに家族の一員として役割を果たし、意欲的に生活することができる。

② 自律的活動について

前述の表1に示した自律的活動の能力を生活科の本単元の子どもの姿に当てはめてみた。(表2)

自律的活動	本単元での子どもの姿
自己理解	自分の良さや可能性を理解する。
自己調整	身近な人々に適切に関わる。習慣や技術を身に付けよりよい生活を作り出す。
キャリアデザイン	自分に自信を持ち、前向きに生活していく。
意思決定	取り組む内容や表現方法を自己決定する。

また、3つの「自立への基礎」を実現するために本単元で意識したい自律的活動につながる活動を作成した。(表3)

ア 学習上の自立のために必要なこと
①問いや疑問を持つ ②学習の見通しを持つ
③他者と伝え合い交流する
④自分なりの方法で表現する
イ 生活上の自立のために必要なこと
①調べたり対話したりして意義に気づき、習慣や技能を身に付け、生活に生かす
ウ 精神的な自立のために必要なこと
①活動や体験を振り返る (自分の成長、集団の中の自分)
②自己決定、自己選択と他者からの共感的な理解

本単元では、生活科の学習内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」を前述の3つの研究の視点に沿った協働・協調的な学びで行うことによって、「自立・協働・創造」を実現する力である「未来を創る(実践力)の自律的活動」が高まるのを目標として取り組んだ。

(2) 指導の実際

単元全体の学習の流れ (11時間扱い)

過程	学 習 活 動
出会い (1)	【視点1：導入，教材提示の工夫】 ①アンケート，幼児の時の靴下を提示して，自分の成長を振り返る。 ・朝起こしてもらっている人のアンケートから家の人にもしてもらっていることがあるのに気づき，多くの事例を出すことができた。 できるようなったことは，誰のおかげでできるようになったんだろう？ 【視点3：言葉かけ】 ・言葉かけや小さい靴下提示，学習シートに自分ができるようになったことを書くことで，自分の成長を感じることができた。 【視点2：学習シート】 ◇単元全体を通した課題提示【視点1：問い】 かぞくについてしらべたり，いえのしごとをやってみたりしましょう。そして，「かぞくにこにこ大きくせん」をして，かぞくにこにこするひみつをともちにしておきましょう。 ②教科書の挿絵や今までの経験をもとに，クイズ形式で，家族がにこにこする場面を思い起こし，作戦の計画を立てる。 【視点3：深く考える言葉かけ】 女の子が靴洗いをしています。おうちの人が見たらどんな気持ちになるでしょう。
イメージ化 (1)	③まず，教科書を使って家の仕事には何があるか，誰がしているか考え，実際に家庭で調べる。 【視点2：思いを書き込むシートの工夫】 ○さんのおうちはおばあさんがご飯を作っているんですね。おばあちゃんを作る家，お父さんが作る家，お母さんが作る家といういろいろあるんですね。 【視点3：考えを広げる言葉かけ】 ・ある子どもが，「お父さんがいないので，おばあちゃんがご飯を作っています。」の発言のあと，この言葉かけで，家族の多様性の認識が広がった。 【視点3：シートの書き方をICTにより説明】 【視点1：家庭の活動につなぐために最後に導入】
試しの体験 (家)	

4 とてもそう思う 3 そう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない

① 問いの工夫

右に示したような、相手意識・目的意識を明確にした単元全体を通した課題を提示した。合わせてミッション表を作成し、毎時間ミッション（めあて）を達成していくことで、課題達成を目指した。

毎時間ミッション表の確認からスタートし、授業の最後もミッションが達成できたら表に貼り、達成を確認して終わるようにした。

子どもたちは、一つのミッションが終わるごとに歓声を上げていた。単元を通した課題提示とミッション表が意欲の向上と常に課題を意識した活動につながった。

そして、授業の中で気付きを深めたり広げたりする言葉かけも工夫した。【言葉かけ】

言葉かけ例 1（子どもの言葉も漢字表記）

できるようになったことを記した板書を指さし、
◇誰のおかげでできるようになったんだろう。

- S お母さんと思います。
S おばあちゃんとかです。 S お父さんです。
S お家のひとのおかげです。
T お家のひとのおかげですね。お風呂掃除も。
S お家のひとです。
T じゃあみんなこうもりとかはどう。
S 先生です。
S 友達に教えてもらったこともある。
S 自分のおかげです。
T 自分の努力があってできるようになったんだね。

言葉かけ例 2（子どもの言葉も漢字表記）

家族がにこにこする場面を出し合った後、

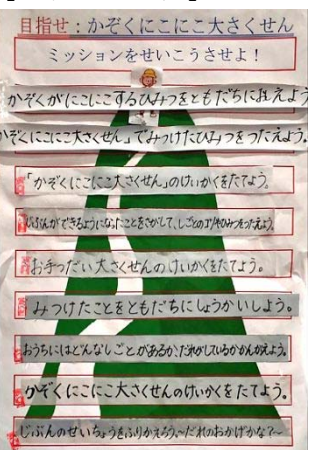
◇女の子が一人で靴洗いでいるけど、それを見ているお家の人はどんな気持ちだと思いますか。

- S お母さんが料理をしているから、自分で靴洗いをしているんだと思います。
T 子どもの気持ちを言ってくれたけどお母さんの気持ちを言ってくれるといいな。
S ちょっとお姉ちゃんになってきたなです。
S 自分で靴洗いをしているな！と思います。
S 靴あらったら気持ち良くなるからいいなです。
S 前はできなかったけど、できるようになったからすごいなと思っています。

【単元の課題】（図2）

いえてのしごとについてしらべたり、
いふのしごとをやってみたりしよう。
そして、かぞくににこにこ大きくせんを
して、かぞくににこにこになるひみつを
ともだちにおしえよう。

【ミッション表】（図3）



例1では、できるようになったことを実感し、先生の言葉かけで問いを広げ、家族のおかげでの成長と自分自身の努力ということを共有できた。

例2では、お家の仕事をできるようになった子どもを見ているお母さんの気持ちまで考えることができた。先生の言葉かけの重要性を強く感じる。

【意識調査】（下線は向上）N＝学級 32，全体 127

意識調査との対応	検証授業学級	学年全体
「問いを持つ」	1 3.44→ <u>3.59</u>	3.39→ <u>3.51</u>
「見通しを持つ」	2 3.44→ <u>3.69</u>	3.41→ <u>3.58</u>
「意欲向上」	11 3.78→ <u>3.91</u>	3.78→3.54

上記の意識調査の結果からも向上が見られた。

② 伝え合いの工夫

授業の中で、子どもたちの伝え合いが高まるように、図4にあるように「一人で」「ペアで」「全体で」思考する場を毎時間設けた。一人で考える場面で困っている

1 時間の学習の流れ（図4）



子どもには、ヒントカードで支援するようにした。また、ペアと全体の活動の前には、図1に示した活動の視点を提示するとともに、先生と子どもで必ずデモンストレーションを行った。

単元初期のペアでの伝え合いでは、最初の一つ伝えたら、あとは雑談になり、動き回るといった状態が多かったが、後半は指定された時間一杯で伝え合いが行われるようになった。

【意識調査】（下線は向上）N＝学級 32，全体 127

意識調査との対応	検証授業学級	学年全体
他者と伝え合い	3 3.09→ <u>3.78</u>	3.01→ <u>3.28</u>
交流する	6 2.78→ <u>3.69</u>	2.90→ <u>3.38</u>
	7 3.53→ <u>3.72</u>	3.24→ <u>3.42</u>

上記の意識調査の結果から、子どもたちの伝え合いの活動は大きく向上したと言える。今回の検証授業で一番向上した項目である。子どもたちは、毎時間ひとりで自分の考えを持ち、ペアや全体で伝え合いをしたことが、良い経験となり、習慣になりつつあると考えられる。

③ 振り返りの工夫

生活科では、自分自身への気付きが重視されている。自分自身の「興味・関心」は何なのかや「できるようになった自分」「成長した自分」「集団の中の自分の存在」に気付き、自分を理解することが重要である。

そこで、毎時間授業で伝え合いと振り返りを位置付けた。振り返りは授業の最後に「前と比べて」「友達と話して」「これから」と三つの視点を提示して行った。

また、単元全体では、試しの体験の後、本格的な体験①の後、本格的な体験②の後と振り返りを行った。特に最後には時間を割いてまとめの発表と振り返りシートを書き活動の振り返りを行った。

◇R君の例（本格的な体験1の後の振り返り）

「かぞくにこにこ大きくせん」のあと失敗したと訴えていたR君が、1時間の中で、先生の言葉かけ、保護者の共感的なコメント、友達の共感的な振り返りにより、笑顔になり自信となった例

【導入場面】（子どもの言葉も漢字表記）

T 「家族にこにこ大きくせん」成功しましたか。

S はい。

R 僕笑われた。にこにこしていないもん。

※ しばらく、僕成功してない笑われたもん。とつぶやいている。

【発表場面】

T R君

R はい 僕は手品をしました。したら家族の顔は笑ってました。質問はありませんか。

S 手品をするとき、どんな気持ちでしたか。

R ドキドキしました。

T ちょっと不安があったそうです。

S 何の手品をしたんですか。

R キャップを使った手品をして失敗しました。

T R君は失敗したと言ってましたね。お母さんからこんなコメントが来ています。

なかなか難しかったようです。1回も成功しませんでした。失敗ばかりでみんな笑ってました。

T 成功しなかったけどいいんですね。失敗しても家族みんながにこにこしてくれるんですね。（みんなから拍手）

R （満足の笑顔）

【振り返りの場面】

S R君は手品を失敗したけど最後まで頑張ったと思います。

T なるほど。今言ったこと分かりますか。失敗したけど最後まで頑張ったから家族がにこにこしてくれたんですね。

R （照れたような表情の後、笑顔になっていた。）

また、生活科で自分自身への気付きを深めたり高めたりするには、活動を振り返り自己理解を深めることが重要である。

◇その他、振り返りシートに記された内容一部抜粋

【振り返りシートより】（漢字表記しました）

○ お米洗いとお料理で人参が切れるようになりました。折り紙でハートを折ってそれに顔を描いたら家族はにこにこしました。びっくりしました。家族はいつもにこにこしていないからこれからもにこにこさせ続けたいです。

○ ともだちに教えたりいろいろなお手伝いができるようになりました。発表したり質問したりするのが楽しかったです。家族が折り紙でにこにこするのを初めて知りました。

○ 食器洗いができるようになりました。発表をするのが楽しかったです。頑張れば家族がにこにこするのを知りました。 ありがとうって言われたのがうれしかったです。

上記のように毎時間の伝え合いと振り返りや絵や文章等で表すなど多様な方法で表現する振り返りを行うことで、新しい気付きが生まれ高まり、自分ができるようになったことや他者との関わり、これからの生活への希望などを感じてくれている。

【意識調査】（下線は向上）N＝学級 32，全体 127

意識調査との対応		検証授業学級	学年全体
表現に自信	4	3.38→ <u>3.53</u>	3.22→ <u>3.45</u>
頑張る意欲	5	3.25→ <u>3.88</u>	3.03→ <u>3.49</u>
学びを生かす	8	3.34→ <u>3.97</u>	3.34→ <u>3.35</u>
成長の気付き	9	3.31→ <u>3.78</u>	3.26→ <u>3.47</u>

意識調査からも特に意欲の高まりや学びを生かす、自分の成長への気付きで向上が見られる。

3 研究のまとめ

今年度の研究において、自立への基礎につながる自律的活動の高まりを見ることができた。そこには、問いの工夫により子どもたちから問いを引き出し、気付きを深める関わりがあった。また、毎時間の伝え合いや振り返りの中で、教師や家族、友達が共感的に関わっている姿があった。そして、改めて、生活科で大切なことは、共感的な子ども理解による言葉かけであることが分かった。そこで、共感的な言葉かけとその関わりを、教師だけの関わりだけでなく、子どもたちの中に広げることが重要となってくる。そのためには、協働・協調的な学びの中で、自律的活動を育むことがますます重要となっていくであろう。

《引用・参考文献》

文部科学省「小学校学習指導要領解説生活科編」
 国立教育政策研究所「論点整理」（H27年8月）、
 「研究報告書1 “使って育てて…”」（H27年3月）
 熊本県立教育センター研究紀要「生活科」（H25年度）

※ 別紙資料(意識調査集計表)

◇生活科意識調査結果集計表(1年全学年)児童数127名(事前124名、事後127名)

下線は＝増加 二重下線太字＝大幅増加 以外は減少

意識調査項目	4	3	2	1	前平均	4	3	2	1	後平均
1 生活の時間どうしてこうなるのかなと考えていますか。	75	33	5	11	3.39	72	49	5	1	<u>3.51</u>
2 生活の時間どうしたらうまくできるか考えますか。	74	36	5	9	3.41	79	43	5	0	<u>3.58</u>
3 生活の時間分らないことを先生や友だちと話し合っ、もっといい方法が見つかったことがありますか。	47	44	20	13	3.01	54	58	13	1	<u>3.28</u>
4 生活の時間、楽しかったことや気付いたことを絵や文で表すことに自信がありますか。	59	43	12	10	3.22	72	42	12	0	<u>3.45</u>
5 生活の時間、先生や友だちから褒められたり、励まされたりしてもっと頑張ろうという気持ちになりますか。	56	26	32	10	3.03	75	43	6	2	<u>3.49</u>
6 生活の時間友だちの発表を聞いて、質問や感想を言いますか。	37	46	32	9	2.90	67	45	12	2	<u>3.38</u>
7 生活の時間勉強して分かったことをお家の人や友だちに進んで伝えますか。	71	25	15	13	3.24	74	38	10	4	<u>3.42</u>
8 生活の時間勉強して分かったことやできるようになったことを家や学校で生かしていますか。	66	36	20	2	3.34	72	36	11	7	<u>3.35</u>
9 生活の時間、自分のいいところや成長したところに気付いたことがありますか。	67	26	27	4	3.26	74	43	7	2	<u>3.47</u>
10 生活の時間、わからないともだちに教えたことがありますか。	66	34	22	2	3.32	69	31	22	4	<u>3.28</u>
11 生活の時間、興味や関心がある学習に進んで取り組むことができますか。	104	16	2	2	3.79	82	35	7	3	<u>3.54</u>

◇意識調査と自立への基礎へつながる自律的活動との関連

自立への基礎項目と意識調査番号の対応	4	3	2	1	前平均	4	3	2	1	後平均
1 学習上の自立 1, 2, 3, 4, 6, 7, 11	467	243	91	67	3.28	500	310	64	11	<u>3.45</u>
2 生活上の自立 7, 8	137	61	35	15	3.29	146	74	21	11	<u>3.38</u>
3 精神的な自立 5, 9, 10	189	86	81	16	3.20	218	117	35	8	<u>3.41</u>

◇生活科意識調査結果集計表(検証授業学級)児童数32名(事前事後ともに32名)

下線は＝増加 二重下線太字＝大幅増加 以外は減少

意識調査項目	4	3	2	1	前平均	4	3	2	1	後平均
1 生活の時間どうしてこうなるのかなと考えていますか。	20	8	2	2	3.44	21	10	0	1	<u>3.59</u>
2 生活の時間どうしたらうまくできるか考えますか。	20	9	0	3	3.44	22	10	0	0	<u>3.69</u>
3 生活の時間分らないことを先生や友だちと話し合っ、もっといい方法が見つかったことがありますか。	13	12	4	3	3.09	26	5	1	0	<u>3.78</u>
4 生活の時間、楽しかったことや気付いたことを絵や文で表すことに自信がありますか。	20	8	0	4	3.38	20	9	3	0	<u>3.53</u>
5 生活の時間、先生や友だちから褒められたり、励まされたりしてもっと頑張ろうという気持ちになりますか。	18	4	10	0	3.25	28	4	0	0	<u>3.88</u>
6 生活の時間友だちの発表を聞いて、質問や感想を言いますか。	9	11	8	4	2.78	22	10	0	0	<u>3.69</u>
7 生活の時間勉強して分かったことをお家の人や友だちに進んで伝えますか。	22	6	3	1	3.53	25	5	2	0	<u>3.72</u>
8 生活の時間勉強して分かったことやできるようになったことを家や学校で生かしていますか。	19	5	8	0	3.34	31	1	0	0	<u>3.97</u>
9 生活の時間、自分のいいところや成長したところに気付いたことがありますか。	18	7	6	1	3.31	25	7	0	0	<u>3.78</u>
10 生活の時間、わからないともだちに教えたことがありますか。	17	10	5	0	3.38	21	8	3	0	<u>3.56</u>
11 生活の時間、興味や関心がある学習に進んで取り組むことができますか。	29	1	0	2	3.78	29	3	0	0	<u>3.91</u>

◇意識調査と自立への基礎へつながる自律的活動との関連

自立への基礎項目と意識調査番号の対応	4	3	2	1	前平均	4	3	2	1	後平均
1 学習上の自立 1, 2, 3, 4, 6, 7, 11	133	55	17	19	3.35	165	52	6	1	<u>3.70</u>
2 生活上の自立 7, 8	41	11	11	1	3.44	56	6	2	0	<u>3.84</u>
3 精神的な自立 5, 9, 10	53	21	21	1	3.31	74	19	3	0	<u>3.74</u>

◇自立への基礎を実現するために意識する自律的活動とは

ア	学習上の自立のために必要なもの(1, 2, 3, 4, 6, 7, 11)
	①問いや疑問を持つ(1) ②学習の見通しを持つ(2)
	③他者と伝え合い交流する(3, 6, 7)
	④自分なりの方法で表現(文、絵、動作等)する(4)
イ	生活上の自立のために必要なもの(7, 8)
	①調べたり対話したりして異議に気付き、習慣や技能を身につけ、生活に生かす
ウ	精神的な自立のために必要なもの(5, 9, 10)
	①活動や体験を振り返る(自分の成長、集団の中の自分)(9, 10)
	②自己決定、自己選択と他者からの共感的理解(5)